

豊かな発想力や創造性を育む教育の推進 ～ 図書ラウンジを生かした教育活動を通して ～

千葉県印西市立いには野小学校 増田 洋子

I 現状と課題

1 現状認識

本校は、千葉ニュータウンの一番東端にバリアフリー化を図って宅地造成された地区にあり、地域とのつながりを考えたオープンスクールになっている。中でも図書ラウンジは、全ての棟をつなぐ交通の要衝的な位置にある。

そこで、豊かな発想力や創造性を育むために、本校の特長の一つである図書ラウンジを生かし、図書館教育を中心とした教育活動の可能性について追求していく。

2 課題分析・アプローチの視点

本校の図書ラウンジは、通常の図書室のように壁で囲まれた部屋ではない。色々な方向から出入りできるので、校舎内の導線の一部となっており、従来の図書室のイメージとは異なる。本校の設計コンセプトである「開かれた学校」の象徴が、図書ラウンジそのものである。

校長として、安全管理の面では悩みも多いが、開かれた図書ラウンジこそが、教育活動の幅を広げ、豊かな発想力や創造性を育む可能性を秘めているのではないかと考えるようになった。そこで、本校の図書館教育を整理し、図書ラウンジを魅力的な空間にすることで、より良い活動が生み出せるのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 研究の概要

この研究では「本に親しませる」ということを中心に据える。私がイメージする本に親しんでいる姿とは、「図書ラウンジに人が多く集まること」と「本がたくさん貸し出されること」である。そのために校長として、具体的な手だてを以下のように設定し、研究を進めていく。

1 担当教諭へのアプローチ

学校図書館関係の計画立案について助言するとともに、各種研修会への参加を推奨する。

[具体的な取組]

- (1) 年間計画や図書館利用方法等の周知
- (2) 全教職員の図書システムの操作方法習得
- (3) 学校司書、図書ボランティア等との連携 等

2 学校司書へのアプローチ

市教育委員会から配置された学校司書に対して積極的に声かけをし、司書連絡会への参加を推奨する。

[具体的な取組]

- (1) 図書ラウンジ使用についてのオリエンテーション
- (2) 図書ラウンジでの読み聞かせ
- (3) 図書システム活用による統計処理 等

3 図書委員会へのアプローチ

担当教諭を通して、子どもたちの自発的・継続的な活動を促す。

[具体的な取組]

- (1) 図書システムを活用した本の貸し出しや返却
- (2) 図書委員による読み聞かせ
- (3) イベントの企画・運営 等

4 図書ボランティアへのアプローチ

P T Aの図書委員会と連携を図り、保護者や地域のボランティアによる自発的な活動を促す。

[具体的な取組]

- (1) 定期的な読み聞かせ
- (2) 季節に合わせた掲示物による装飾
- (3) 本の修理 等

5 関係機関や保護者・地域へのアプローチ

管理職が窓口となり、関係機関との連絡調整を行うとともに外部に向けて情報を積極的に発信する。

[具体的な取組]

- (1) 市の図書館からのスクール便
- (2) 出前講座「本の修理講座」の開催
- (3) ホームページによる情報発信 等

6 他の職員へのアプローチ

職員自身が図書ラウンジを自由な発想で活用できるように呼びかける。

[具体的な取組]

- (1) 学習発表の場やコンサート会場としての活用
- (2) 各教科等の調べ学習 等

III 成果と課題

1 成果

- (1) 図書ラウンジに多くの子どもたちが集い、進んで本を読む子が増加した。
- (2) 各教科等の調べ学習の場として活用することで、発想力や創造性を生み出すことに効果を上げている。
- (3) 季節感あふれる装飾等により魅力的な空間となり、コミュニケーションを広げている。

2 課題

- (1) 高さのある書棚を置くことができず、図書ラウンジだけで蔵書数を確保するのに限界がある。
- (2) さらなる充実のため、校内に読書推進運営委員会を設置するなどして、組織的な運営を図る必要がある。

IV 提言

- 1 子どもたちの豊かな発想力や創造性を育むためには、教師自身の発想力も欠かせない。教職員が子どもの幸せにつながるような教育活動を提案してきた場合は、全力で支援する。
- 2 図書ラウンジを魅力的な空間にすることがよりよい活動を生み出す切り口になると考え、柔軟な発想でカリキュラム・マネジメントを推進していく。